那須塩原市観光活性化特集

付加価値向上でブランド力アップ

特別対談

栃木県那須塩原市は豊かな自然や塩原、板室の両温泉地、農業資源などに恵まれ、首都圏を中心に多くの観光客が訪れていた。コロナ禍で苦戦を強いられているが、潜在需要は大きい。市の観光をけん引する渡辺美知太郎市長と那須塩原市観光局の西須紀昭局長の対談を通して、那須塩原観光の魅力や課題を語っていただいた。司会は論説委員の内井高弘。（市長室で）

栃木県那須塩原市長
渡辺　美知太郎氏

那須塩原市観光局長
西須　紀昭氏

観光は総合産業
持続可能な観光地に選出
日本一の感染対策実施

キーマンの活躍に期待
「まちバル」など新たな試み
「竹取物語」を磨き上げ

――市長は2019年4月の就任ですが、那須塩原についてどんな印象をお持ちですか。

渡辺　私は東京出身で、外から市を見た時に、観光を含めて資源を活用しきれていない、もったいないと感じた。すばらしいポテンシャルを秘めており、魅力をもっと発信すべきだ。市長として最大限引き出せる施策を打ち出すのも仕事の一つと思っている。

観光は市民からすると温泉、旅館のイメージが強いが、総合産業である観光ほど適した産業はないと認識している。地域のブランド力を上げるのに大変だと思う。サステナブルな取り組みに地域の人々が価値を見いだしてくれないと意味がない。どう理解を得るか、これからだ。

――地球温暖化で気候変動が常態化し、各地で台風や豪雨による被害が相次ぎ、観光にも大きな影響を与えています。温暖化対策は欠かせませんね。

渡辺　21年9月、塩原、板室両温泉地区が環境省の「ゼロカーボンパーク」に登録された。県内では初めて、全国でも3番目となり、画期的なことだ。

基幹産業である観光と農業は気候変動の影響を受けやすい。両地区で脱炭素化の取り組みを進め、サステナブルな観光地づくりを加速する。脱炭素化は地域のブランド力を高めることにもつながる。50年までに二酸化炭素（CO_2）排出量の実質ゼロを目指すと宣言している。

西須　地域電力から通常より値段の高い太陽光発電など、CO_2を多く出さない発電による電気を宿泊施設が率先して買い、CO_2削減費用を上乗せした宿泊プランを販売することを検討してみてもいい。

インバウンドが再開した時に、電気を自然エネルギーで回している観光地であることは大きなアピールポイントになるのではないか。

――観光需要喚起策として宿泊料の一部を補助する「リフレッシュ！宿泊キャンペーン」を実施していますが、効果のほどは。

渡辺　市民や市内通勤・通学者が対象で、市内宿泊を促すことにより、地元の魅力を知るきっかけになることも狙った。利用者の4割の人が「初めて泊まった」という。地元の人は「那須塩原は何もない」というが、知ろうとしないだけで（笑い）、キャンペーンで地域の良さを発見した人も多かったのではないか。

西須　キャンペーンは第3弾（21年10月22日～12月31日）まで実施され、旅行需要の喚起に一定の効果があったと思う。

キャンペーンに合わせて、塩原温泉地区では12月10日から23日まで、商工会が観光協会と協力し、初めて「まちバル」を実施した。飲食店が協力し、一晩で飲み歩き・食べ歩きができるようメニューを工夫してお客さまを迎える地域一体型イベントで、地元の活性化に貢献した。

――感染症対策として、市独自の認証制度（新型コロナウイルス感染症対策取組認証制度）も創設しました。

渡辺　日本一の感染防止対策と自負している。事業所が実施している取り組みが市の基準を満たす場合、認証し、認証証やステッカーなどを交付している。基準は専門家の意見をもとに策定し、実際に現地に足を運んでチェックする人に研修を受けさせるなど、徹底している。

――冬のイベントについては。

西須　現在、ライトアップイベント「竹取物語」が開催されている（2月27日まで）。塩原温泉街のあちこちに孟宗竹を切り出して作った竹灯篭や提灯、番傘が並び、幻想的な明かりを灯している。今回はブラッシュアップしており、ぜひ足を運んでいただいて夜の温泉街を楽しんでほしい。

――観光事業者に向け、期待を込めて、メッセージをいただきたい。

渡辺　コロナで大変な思いをしており、行政としてきちんと支援していく。先ほども言ったが、観光は地域の付加価値を上げる産業であり、その動向は地域全体を左右する。農業や食との連携を意識し、市の発展のために力を貸していただきたい。

西須　これまで温泉と宿泊施設がセットになって観光をけん引してきたが、これからは変わっていかなければ生き残れない。自然、食と農業、そして商店街が一緒になって観光客を呼び込むべきだ。

人が集まり、にぎわう場所を一つでも多く作る必要がある。そのためには観光事業者のバックアップが欠かせない。視野を広げて協力していただきたい。

↙**西須**　市は「日本版持続可能な観光ガイドライン」の21年度モデル地区に選定されており、その取り組みの一つとしてGDが実施する表彰制度にエントリーし、選ばれた。持続可能な観光地としての国際的な認知度向上につながると思う。

――連続して選ばれている地域は少ないですね。

渡辺　釜石市が4年連続、京都市やニセコ町が2年連続と聞いているが、連続して選ばれるのは大変だと思う。サステナブルな取り組みに地域の人々が価値を見いだしてくれないと意味がない。どう理解を得るか、これからだ。

――地球温暖化で気候変動が常態化し、各地で台風や豪雨による被害が相次ぎ、観光にも大きな影響を与えています。温暖化対策は欠かせませんね。

渡辺　21年9月、塩原、板室両温泉地区が環境省の「ゼロカーボンパーク」に登録された。県内では初めて、全国でも3番目となり、画期的なことだ。

基幹産業である観光と農業は気候変動の影響を受けやすい。両地区で脱炭素化の取り組みを進め、サステナブルな観光地づくりを加速する。脱炭素化は地域のブランド力を高めることにもつながる。50年までに二酸化炭素（CO_2）排出量の実質ゼロを目指すと宣言している。

西須　地域電力から通常より値段の高い太陽光発電など、CO_2を多く出さない発電による電気を宿泊施設が率先して買い、CO_2削減費用を上乗せした宿泊プランを販売することを検討してみてもいい。

インバウンドが再開した時に、電気を自然エネルギーで回している観光地であることは大きなアピールポイントになるのではないか。

――観光需要喚起策として宿泊料の一部を補助する「リフレッシュ！宿泊キャンペーン」を実施していますが、効果のほどは。

渡辺　市民や市内通勤・通学者が対象で、市内宿泊を促すことにより、地元の魅力を知るきっかけになることも狙った。利用者の4割の人が「初めて泊まった」という。地元の人は「那須塩原は何もない」というが、知ろうとしないだけで（笑い）、キャンペーンで地域の良さを発見した人も多かったのではないか。

西須　キャンペーンは第3弾（21年10月22日～12月31日）まで実施され、旅行需要の喚起に一定の効果があったと思う。

キャンペーンに合わせて、塩原温泉地区では12月10日から23日まで、商工会が観光協会と協力し、初めて「まちバル」を実施した。飲食店が協力し、一晩で飲み歩き・食べ歩きができるようメニューを工夫してお客さまを迎える地域一体型イベントで、地元の活性化に貢献した。

――感染症対策として、市独自の認証制度（新型コロナウイルス感染症対策取組認証制度）も創設しました。

渡辺　日本一の感染防止対策と自負している。事業所が実施している取り組みが市の基準を満たす場合、認証し、認証証やステッカーなどを交付している。基準は専門家の意見をもとに策定し、実際に現地に足を運んでチェックする人に研修を受けさせるなど、徹底している。

――冬のイベントについては。

西須　現在、ライトアップイベント「竹取物語」が開催されている（2月27日まで）。塩原温泉街のあちこちに孟宗竹を切り出して作った竹灯篭や提灯、番傘が並び、幻想的な明かりを灯している。今回はブラッシュアップしており、ぜひ足を運んでいただいて夜の温泉街を楽しんでほしい。

――観光事業者に向け、期待を込めて、メッセージをいただきたい。

渡辺　コロナで大変な思いをしており、行政としてきちんと支援していく。先ほども言ったが、観光は地域の付加価値を上げる産業であり、その動向は地域全体を左右する。農業や食との連携を意識し、市の発展のために力を貸していただきたい。

西須　これまで温泉と宿泊施設がセットになって観光をけん引してきたが、これからは変わっていかなければ生き残れない。自然、食と農業、そして商店街が一緒になって観光客を呼び込むべきだ。

人が集まり、にぎわう場所を一つでも多く作る必要がある。そのためには観光事業者のバックアップが欠かせない。視野を広げて協力していただきたい。

――市長は2019年4月の就任ですが、那須塩原についてどんな印象をお持ちですか。

渡辺　私は東京出身で、外から市を見た時に、観光を含めて資源を活用しきれていない、もったいないと感じた。すばらしいポテンシャルを秘めており、魅力をもっと発信すべきだ。市長として最大限引き出せる施策を打ち出すのも仕事の一つと思っている。

観光は市民からすると温泉、旅館のイメージが強いが、総合産業である観光ほど適した産業はないと認識している。地域のブランド力を上げるのに大変だと思う。サステナブルな取り組みに地域の人々が価値を見いだしてくれないと意味がない。どう理解を得るか、これからだ。

――地球温暖化で気候変動が常態化し、各地で台風や豪雨による被害が相次ぎ、観光にも大きな影響を与えています。温暖化対策は欠かせませんね。

渡辺　21年9月、塩原、板室両温泉地区が環境省の「ゼロカーボンパーク」に登録された。県内では初めて、全国でも3番目となり、画期的なことだ。

基幹産業である観光と農業は気候変動の影響を受けやすい。両地区で脱炭素化の取り組みを進め、サステナブルな観光地づくりを加速する。脱炭素化は地域のブランド力を高めることにもつながる。50年までに二酸化炭素（CO_2）排出量の実質ゼロを目指すと宣言している。

西須　地域電力から通常より値段の高い太陽光発電など、CO_2を多く出さない発電による電気を宿泊施設が率先して買い、CO_2削減費用を上乗せした宿泊プランを販売することを検討してみてもいい。

インバウンドが再開した時に、電気を自然エネルギーで回している観光地であることは大きなアピールポイントになるのではないか。

――観光需要喚起策として宿泊料の一部を補助する「リフレッシュ！宿泊キャンペーン」を実施していますが、効果のほどは。

渡辺　市民や市内通勤・通学者が対象で、市内宿泊を促すことにより、地元の魅力を知るきっかけになることも狙った。利用者の4割の人が「初めて泊まった」という。地元の人は「那須塩原は何もない」というが、知ろうとしないだけで（笑い）、キャンペーンで地域の良さを発見した人も多かったのではないか。

西須　キャンペーンは第3弾（21年10月22日～12月31日）まで実施され、旅行需要の喚起に一定の効果があったと思う。

キャンペーンに合わせて、塩原温泉地区では12月10日から23日まで、商工会が観光協会と協力し、初めて「まちバル」を実施した。飲食店が協力し、一晩で飲み歩き・食べ歩きができるようメニューを工夫してお客さまを迎える地域一体型イベントで、地元の活性化に貢献した。

――感染症対策として、市独自の認証制度（新型コロナウイルス感染症対策取組認証制度）も創設しました。

渡辺　日本一の感染防止対策と自負している。事業所が実施している取り組みが市の基準を満たす場合、認証し、認証証やステッカーなどを交付している。基準は専門家の意見をもとに策定し、実際に現地に足を運んでチェックする人に研修を受けさせるなど、徹底している。

――冬のイベントについては。

西須　現在、ライトアップイベント「竹取物語」が開催されている（2月27日まで）。塩原温泉街のあちこちに孟宗竹を切り出して作った竹灯篭や提灯、番傘が並び、幻想的な明かりを灯している。今回はブラッシュアップしており、ぜひ足を運んでいただいて夜の温泉街を楽しんでほしい。

――観光事業者に向け、期待を込めて、メッセージをいただきたい。

渡辺　コロナで大変な思いをしており、行政としてきちんと支援していく。先ほども言ったが、観光は地域の付加価値を上げる産業であり、その動向は地域全体を左右する。農業や食との連携を意識し、市の発展のために力を貸していただきたい。

西須　これまで温泉と宿泊施設がセットになって観光をけん引してきたが、これからは変わっていかなければ生き残れない。自然、食と農業、そして商店街が一緒になって観光客を呼び込むべきだ。

人が集まり、にぎわう場所を一つでも多く作る必要がある。そのためには観光事業者のバックアップが欠かせない。視野を広げて協力していただきたい。

↖**西須**　インバウンドの割合は1%程度ほどで、少ない分伸びしろがある。いろんな国・地域から受け入れるのは限界があり、ピンポイントでの受け入れが現実的だ。コロナ前は台湾からの観光客がインバウンド全体の5割ほどを占めており、まずここがターゲットになる。

当地は、観光庁と厚生労働省がインバウンド向けに実施するヘルスツーリズムの調査・展開事業の実証地域に選ばれ、20年2月に塩原温泉病院で温泉を利用した健康増進ツアーを計画していた。コロナ禍で中止となったが台湾医師会を招待し、医療・観光資源を見てもらった。

インバウンドの回復はまだ先になるが、誘致に向けてはターゲットを絞り、ヘルスツーリズムのような特別なツアーを提案していく。

――コロナ禍で出てきたのがワーケーションですが、板室温泉のように受け入れに積極的な地域もある。

西須　アクセスの良さに加え、いろんな観光・アクティビティ資源があり、ワーケーション先として有望だ。現在、市内各地区において、館内Wi-Fi環境整備を推進する等、ワーケーション受け入れ態勢を整備している。

――21年のトピックスといえば、市が「世界の持続可能な観光地トップ100選」に選出されたことですね。名誉なことだと思います。

渡辺　オランダにある国際認証団体、グリーン・デスティネーションズ（GD）が発表しているもので、日本からは本市を含め12カ所が選ばれた。関東地区からは本市だけで、県内でも初めてのことだ。

評価されたのは「観光のリセットと回復」の部門で、塩原温泉や板室温泉の旅館・ホテルで入湯税を上げて財源を確保、観光従事者にPCR検査を受けてもらうことで安心して観光をしてもらおうという試みが評価された。入湯税引き上げについては旅館・ホテルにとって集客の際の痛みとなるが、理解を示してくれた。やってよかったと思う。

世界の持続可能な観光地トップ100選
栃木県内で初の選出

那須塩原市は2021年、オランダの国際的な認証団体、グリーン・デスティネーションズ（GD）の「世界の持続可能な観光地トップ100選」に選出された。栃木県内でも初めての出来事であり、快挙といえる。

観光や地域づくりなどに関する国際的基準100項目のうち、15項目以上を満たした観光地を選んだ。より良い観光地づくりに努力している市の取り組みが実った。

評価されたのは「観光のリセットと回復」という部門で、具体的には、旅館・ホテルの入湯税を上げて財源を確保し、それを活用して観光従事者にPCR検査を受けてもらい、安心して観光をしてもらおうという試みが高く評価された。旅館・ホテルの協力もあった。

市は今後も引き続き、観光と市民生活のより良い調和、地域文化や地域コミュニティの継承、発展につながる持続可能な観光の実現を目指すとしている。

幻想的な光で温泉街を彩る竹灯篭（湯っ歩の里）

塩原温泉竹取物語
2月27日まで開催

塩原温泉で冬の温泉街を竹灯篭や提灯、番傘で彩るイベント「塩原温泉竹取物語」が2月27日まで、「紅の吊橋・もの語り館」と「湯っ歩の里」両エリアで開催されている。

コンテンツを磨き上げ「さらに特別感のある幻想的で魅力的な夜の塩原温泉を演出した」（那須塩原市観光局）という。

長さ約15㌢から2㍍の孟宗竹（もうそうちく）に直径約4㍉から2㌢の穴をあけ、塩原の清流を模した。内部に設置した発光ダイオード（LED）の光が12色に変化し、色とりどりの水の流れを表現している。

点灯時間は午後5～9時。問い合わせは塩原温泉観光協会、☎0287（32）4000。

黒磯雛めぐりスタンプラリー
3月31日まで開催

那須塩原市黒磯地区で1月15日から「日本一はやい？　黒磯雛めぐりスタンプラリー」がはじまった。

黒磯観光協会や市商工会黒磯地区各支部、板室温泉旅館組合などで構成する「街めぐり推進協議会」が中心となって、3月31日まで実施する。

黒磯地区を五つのエリア（黒磯、鍋掛、東那須野、高林、板室）に分け、各エリア最低1カ所以上の参画施設を巡り、スタンプを集めてもらう。市自慢の特産品など素敵な賞品が抽選で当たる。

「3密を回避しながら実施する。観光客に回遊してもらうことで、にぎわいを創出し、まちの発展に寄与したい」と意気込む。問い合わせは、☎0287（62）7155。